

## 鹿苑寺不動堂石室の文字

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

はじめに 鹿苑寺は京都北山の南に位置する臨済宗の寺院で、金閣寺と呼ばれる名刹の一つです。

不動堂はこの鹿苑寺境内にあり、本尊である不動明王立像は石造のために一名、石不動とも呼ばれ、『洛中洛外図』や『都名勝図会』などにも見るすることができます。この本尊は秘仏ですが、節分と五山送り火の両日だけ開帳されます。

平成15年の秋、この不動堂で年号や名号、題目などを書き記した史料が発見されました。

不動堂 不動明王立像が安置されている建物は、正面や南側から見ると木造瓦葺です。これはお参りするための礼堂であり、本尊はこの建物とは別に造られた石室の中にあります。

本尊を祀る石室は、最大幅約2m・奥行きは最大で2.5mあります。内部は総て自然石でできており、古墳の石室を連想させますが、側壁などは石室とは全く異なった構造で、鎌倉時代や室町時代の庭園に見られるような石組を彷彿とさせます。石材は基本的に板状の緑色片岩で大小ありますが、大きい物では幅1m・長さ1.6m以上に及ぶものも見受けられます。

本尊の不動明王立像は西側を向いて立っており、身長164cm・肩幅55cmで、その後方に石造の光背があります。本尊の左右には花崗



石不動像 石室入り口から内部を見る

岩製の石柱と台があり、以前ここに二童子像が在ったことを物語っています。

左側手前には、体長46cm・高さ24cmほどの狛犬が南を向いて床に置かれています。これらの他にも文様を刻んだ石材が見つっていますが、それについては別の機会に改めて報告します。

石室の最大の特徴は、壁面や天井に緑色片岩を多用していることです。この緑色片岩は京都盆地及びその周辺部には分布していませ

んが、紀ノ川や吉野川の流域ではよく見ることができます。市内の庭園や遺跡などで見るものは、すべて運び込まれたものです。そのはじめりは比較的早く、平安時代まで遡ることができます。この石は水に濡れると美しい緑色に発色し、平安時代の貴族たちを魅了する貴重な石でした。

本尊の不動明王立像や狛犬などは和泉砂岩と呼ばれるもので、これらも和歌山近辺から京都へはるばる運ばれてきたものです。

不動堂で発見した文字 不動堂の石室内で文字の存在に気づかれたのは鹿苑寺執事長の山木康稔さんでした。

文字は、石室の入口に最も近い場所に据え付けられている北壁と南壁の石に記されていました。墨で書かれたものでなく、先端が鋭く尖った、例えば刃物のようなもので線書きされたものです。この石室内は全く陽が差し込まないため、今後も新たな文字が発見される可能性が大いにあります。

これまでに、年号・名号・題目・人名・<sup>ほんじ</sup>梵字・線刻画などが明らかになりました。

年号の、「庚永元暮秋下旬」は康永元年（1342）九月下旬、「庚永二年六月」は康永二年（1343）六月、「庚永四」は康永四年（1345）、「貞和二五廿四」は貞和二年（1346）五月二十四日、「文和二年拾月十七日」は文和二年

（1353）十月十七日、「應永十二年四月十九日」は應永十二年（1405）四月十九日のことです。

文字の中に年号が発見されたことは、石室の成立年代を知るうえで重要な史料になりました。これらは南北朝時代から室町時代にかけてのもので、その内容は石不動の信仰に関わる資料でした。文字資料を不動明王が安置される石室内で発見したことは極めてまれなことです。では、この年号が記された頃の当地の歴史的背景について少し考えてみましょう。

年号からわかったこと 鹿苑寺の境内には、江戸時代の方丈や庫裏・茶室、室町幕府の三代将軍であった足利義満が造営した北山殿の金閣や鏡湖池、鎌倉時代に西園寺公経が営んだ北山第の遺構が点在しています。

石室に記された康永元年（1342）から文和二年（1353）の頃になる

と、西園寺家は公経の頃のような勢力はもはや見られずに衰えていましたが、まだこの地は西園寺家が所有していました。足利義満がここに北山殿の造営を開始するのは、康永元年から55年後の応永四年（1397）になってからのことで、南壁に記されていた應永十二年（1405）は、義満が北山殿の造営に着手してから8年後になります。

このように、不動堂は西園寺家が北山第に造営したものであることがわかります。鹿苑寺境内にあって西園寺家の北山第に係する遺構はほとんど見られず、数年前に調査した<sup>あんみんたく</sup>安民沢が今までに確認できた唯一のものでした。この不動堂に記された文字は、西園寺家の北山第から義満の北山殿へ、そして鹿苑寺へと変遷をとげた歴史を今に伝える貴重な史料であることがわかります。

（鈴木 久男）

年号  
〔北壁〕 庚永元暮秋下旬、庚永二年六月、庚永四、貞和二五廿四、  
文和二年拾月十七日、應永十二年四月十九日など  
〔南壁〕 應永十二年四月十九日  
名号・題目  
南無不動明王、南無妙法蓮華經、南無阿弥陀佛、南無伍大力菩薩、南無大聖  
南無明王など  
人名  
兵衛五郎、七郎、国久、賢範、重久など  
梵字（一文字だけ単独に記したもの、数文字縦書きした行、線書きした五輪塔の側面に記した  
ものなどで、現在、検討中）

確認した文字



不動堂石室の北壁



拓影 文字を朱で示した